

果樹研究所ニュース



独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

果樹研ニュースリニューアル、 果物もリニューアル？

今回から果樹研究所ニュースをリニューアルしました。今まで年間数回、紙媒体で配信していたものを、WEB上で配信することにし、今までより頻繁に、また、より最新的话题をお届けしようとするものです。



モモの花

果樹研究所で育成した品種を中心に「一押し」の旬の話題」として、このWEB上で毎月2回お届けしていますが、品種ができるまでの苦労話や、研究を進める

上での失敗談などの話題をお届けし、皆様に研究所を身近に感じていただきたいと思います。このニュースをご覧いただき、ご意見やご質問などを通して交流ができればと思っています。

果樹研究所ニュースはリニューアルしましたが、最近、果物も少しずつ変わってきました。果物は美味しくなければ食べてもらえませんので、美味しいことを前提に、加えて特徴のある形質を持った、楽しい品種を育成してきました。

たとえば、ニホングリでは初めて渋皮のむける「ぼろたん」、カキであって、カキの様ではない肉質の「太秋(たいしゅう)」、赤肉のウメで梅酒が美味しい「露茜(つ

所長 長谷川 美典



ゆあかね)」、マスカットの香りが高く皮ごと食べられ、緑色のきれいなブドウ「シャインマスカット」、ウンシュウミカンの時期に食べられる真っ赤なミカン「みはや」などがあげられます。

すでにご紹介していますが、果物は花を愛で、香りを楽しみ、果実を収穫する喜び、また食べて良しと、年中楽しむことができます。完熟した果実を自分の手でもぎ取って食べたときの喜びや美味しさは忘れることはできません。

私も学生時代、静岡県の日町へミカン狩りに行って、黄色く実ったミカンをもぎ取って食べた味は忘れることはできません。その後果樹研究所へ勤めることになりましたが、ミカンの収穫をする毎に、学生時代のことが思い出されます。

本当に美味しい果物を食べると、果物の虜になってしまうこと請け合いです。皆様、是非とも果物大好き人間になってください。



ミカンの花

戦争を乗り越えて実った世界一のリンゴ品種「ふじ」

企画管理部情報広報課専門員

吉岡 博人

私がリンゴの「ふじ」を初めて食べたのは1970年頃でした。みつが入っているのに先ず驚きました。果汁がたっぷりで香りが高く、リンゴのイメージを大きく変えるものでした。しかし、「ふじ」の品種改良が始まったのはそれよりもずっと前にさかのぼった太平洋戦争開戦2

年前の1939年(昭和14年)です。

当時の農林省園芸試験場東北支場(現在の農研機構果樹研究所リンゴ研究拠点、昭和36年に青森県藤崎町から盛岡市へ移転)で、「国光」に「デリシャス」を交配して育成されました。太平洋戦争開戦と同時に臨時農地等

管理令が施行され、果樹類を伐採して麦やイモを植えることが奨励されます。やがて農薬の供給も途絶え、ほとんどの果樹が病害虫無防除状態に置かれました。担当の研究者も次々に出征し、育種事業は事実上停止したようです。隠れるようにして栽培・維持された苗木は戦後になって結実を開始し、その中から「ふじ」が選抜されます。



1962年（昭和37年）に命名・登録された「ふじ」の名前は、育成地の青森県藤崎町の町名と日本一の富士山の名前に因ん

でいます。当初の「ふじ」は評価が真っ二つに分かれたそうです。抜群の美味しさを称賛する声と、外観の悪さを非難する声がありました。色づきが悪く果形が斜めに歪み、果肉が割れるなどの欠点があったからです。現在の「ふじ」は栽培法の改善と工夫でこれらの欠点は克服されています。しかし、当時の「ふじ」は致命的なほど色づきが悪かったようです。

「ふじ」への品種変更を後押ししたのは貿易自由化による圧力でした。1963年（昭和38年）にバナナが自由化され、1968年（昭和43年）にはミカンの豊作が重なり、当時の主力品種だった「国光」、「紅玉」の価格は大暴落してしまいます。青森県のリンゴ農家では、売れないリンゴを山や川に投棄し、「山川市場に出荷した」とうそぶいていたそうです。これを機に「国光」「紅玉」は「ふじ」に高接ぎ更新されて行きます。「ふじ」は見かけはともかく、内容の良さで市場を拡大していきました。「ふじ」の

品質は美味しさだけではなく、抜群の貯蔵性にあります。年間を通じて販売できるからです。

「ふじ」はリンゴ産業の救世主と呼ばれるようになります。1981年（昭和56年）には生産量日本一となり、1991年（平成3年）から始まるオレンジの自由化にも打ち勝っていきます。「ふじ」の生産が増大した時代は日本経済が急激に拡大し、食生活を含めた生活の質が飛躍的に向上した時期で、「ふじ」の品質の高さは時代の空気を象徴していました。すべてがよい循環で動いていた時代のように見えます。Wall Street Journalが「ふじ」をMade in Japanの象徴のように紹介したのはこの頃です。「ふじ」の育種が戦前に開始されたとはとても想像できませんでした。2001年（平成13年）には中国で大量に生産されていることが判明し、ついに世界一のリンゴ品種に認定されました。

「ふじ」の原木は、リンゴ研究拠点の研究圃場の一角で大事に保存されています。『世界一』という気負いよりも、凜として立つ『孤高』な印象があります。時代を象徴するモニュメントでもあります。



「ふじ」の原木 撮影：2012年（平成24年）10月13日

お知らせ

■ 農業技術研修生募集案内

果樹農業の担い手となる人材の養成を目指した研修制度です。研修は2学年制で、講義と実習を行っております。実習は主に、果樹栽培管理に必要な作業を行っています。

3月6日に一般入試（後期）を計画しております。（募集人員 各コース15名）

- ・募集コース（研修場所）
- 落葉果樹コース 本所（つくば市）
- 常緑果樹興津コース
- カンキツ研究興津拠点（静岡市）
- 常緑果樹口之津コース
- カンキツ研究口之津拠点（南島原市）
- ・募集機関 1月21日～2月22日

※詳細は、果樹研究所 Web サイトをご覧ください。URL=<http://www.naro.affrc.go.jp/fruit/>

■ イベント案内

一般公開（興津）

開催日：平成25年2月10日（日）
 時間：10:00～16:00
 場所：カンキツ研究興津拠点
 静岡市清水区
 問い合わせ：電話054-369-7100

果樹研究所ニュース 第30号（平成25年1月4日）

編集・発行：独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 NARO Institute of Fruit Tree Science

事務局：企画管理部 情報広報課 TEL 029-838-6454

住所：〒305-8605 茨城県つくば市藤本2-1 <http://www.naro.affrc.go.jp/fruit/>

